



しら 鹿 発祥の地



富西谷地区、富小学校の脇の道を北上すると、清涼感あふれる静かな溪谷が現れます。この溪谷が「白賀溪谷」で、この自然美を保つため地元有志による熱心な保護活動が行われています。

この白賀溪谷の入口には自然石に「白鹿発祥之地」と刻まれた碑が建っています。この白鹿発祥の地の由来は、わが国の六国史の一つである平安時代の歴史書『日本文徳天皇実録』にある「斉衡三年（八五六）、美作国から白い鹿が献上され、これを神泉苑（平安京内にある天皇の庭園）に放った」という記録によるものです。白鹿は神の使いとされ、祥瑞（めでたい前兆）とされ



てきました。祥瑞とされるものは白鹿以外にも木連理（二本の木がくっついて一本になったもの）や白い亀、白い鳥獣、特異な天候や自然現象などがあります。この祥瑞は天皇の徳が広く行き渡っていることを証明するものと考えられ、これらを発見したら朝廷に献上または報告され、発見者や発見された地域に褒美が与えられたり、税の一部を免除されるとい

う恩恵が得られました。

斉衡三年に美作国から白鹿が献上された時は美作国の百姓のその年の徭役（国の命令で行われる労働）が二十日間免除され、さらに苦

田郡ではその年の調（国に税として納める米以外の特産物）が免除されていますので、この白鹿は苦田郡内から見つかったことは間違いないでしょう。当時の苦田郡は、現在の鏡野町域だけではなく、旧加茂町・旧阿波村と、現在の津山市の中心部を含む吉井川・加茂川以北あたりまで広がり、非常に広範囲なのですが、白賀地域は、元禄四年（一六九一）編纂の『作陽誌』でも「鹿猿多し」といわれる山深い所で『作陽誌』では「白河ヶ山」と記載

あることと、「白賀」の地名が「白鹿」につながるから、地元では昔からこの白賀地域で白鹿が発見されたと言いつづえられており、明治時代の終わり頃に石碑が建てられました。

苦田郡から白鹿が献上された同じ年には常陸国（今の茨城県）真壁郡から木連理も献上され、美作国と同じく徭役・調の免除を受けています。そして、これらを慶事として翌年の元号を「天安」と改元しました。

ちなみに美作国からは天平三年（七三二）に木連理を献上しており（『続日本紀』）、延暦二十一年（八〇二）・二十二年（八〇三）に白鹿（『日本紀略』・『類聚国史』）、弘仁五年（八一四）には白雀（『日本紀略』）、貞観四年（八六二）年にも白鹿（『日本三代実録』）が献上されていたことが記録されています。

参考『富村史』・『鏡野町史』史料編

岡山県では、今年度から三ヶ年計画で「近代和風建築総合調査」を実施いたします。これは、県内に存在する近代（明治、昭和二〇年）に建築された和風建造物を対象とした調査で、今年度は第二次調査として、各市町村にどのような建物が残されているのかを町生涯学習課で調査しています。つきましては、ご自宅もしくは皆さんがご存じの該当の建物がございましたら、生涯学習課または最寄りの文化財保護審議会委員までお知らせ下さい。



岡山県近代和風建築総合調査のご協力について

また、調査のため生涯学習課職員や文化財保護審議会委員が皆様のお宅へお伺いするかもしれませんが、ご協力の程よろしくお願ひします。

・**対象の建物**
明治時代から昭和二〇年までの間に建てられた和風建造物。民家、寺社、公共建築物、倉庫、店舗など。（江戸時代の建物は対象外です）

・**調査の方法**
第一次調査は建物の所有者、場所の確認と、建物の外観の写真撮影のみです。ただし、特に重要な建物については来年度以降に専門の調査員による詳しい調査を行う場合があります。

・**その他**
今回の調査で得たデータは、町教育委員会と県教育委員会が保管し、それ以外の外部へ出すことはありません。

連絡先 鏡野町生涯学習課（エヌエフ館内）
Tel(0868)541-7733
担当：日下 月曜日は休館日になります。
または町文化財保護審議会委員
定久正義 池田昭彦 川端和生
吉川元春 石田耕造 藤木精二
森江勇夫 佐古庸二 築山弘美
秋成知道 石原俊次 牧野 忠